

生まれつき足が不自由な男に、ペトロが「ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と言うと、彼は立ち上がり、歩き出しました。彼は喜び、ペトロとヨハネの周りを踊り回っていました。彼らの周りに集まってきた人々に向かって、ペトロは「なぜこのことに驚くのですか。」と言います。人々はペトロやヨハネが魔術的な力や信心によって足が不自由な人を癒したと思っていたのです。ペトロはまずそのことを否定します。ペトロがこのような奇跡を行ったのは自分が言った言葉であって、イエスの力によって行われたと言うのです。16節には、「イエスの名」が彼を強くし、「イエスの名を信じる信仰」によって彼は癒された、と記されています。しかし、少なくともここでは足が不自由な人はまだイエスのことは何も知りません。

マルコによる福音書の「イエスの服に触れる女」の癒しの物語に出て来る「あなたの信仰、信頼があなたを救った」とは違うのです。マルコによる福音書においては、癒しを受ける人自身がイエスを信頼することが重要なのですが、ここでは癒される人が何を考えていようと、奇跡を行なうペトロが「イエスの名」を駆使したことが奇跡の決め手になっているのです。この癒しの業では神さまがイエスを通して行われたことが強調されているのです。この足の不自由な人のように、イエスの名によってこそ、本当に必要な根本的な救いが与えられるのです。足の不自由な人はペトロたちに施しを求めました。しかし、「イエスの名」によって与えられたのは、立ち上がり、歩けるようになること、つまり彼の苦しみの根本的な解決でした。イエスが十字架にかかって死んでから、まだ2ヶ月程しか経っていません。「あなた方はイエスを十字架にかけて殺したが、イエスは神さまにより復活させられた。そして、この男はイエスの名によって癒された。これ程、十字架にかけられたイエスが神さまから遣わされた方であること確かな証拠はないでしょう。だから、少しも驚くことではないのです。」と、ペトロは語ったのです。

今日の箇所、ペトロは、イエスは旧約以来預言されてきたキリストであり、この方は十字架の上で殺されたが神さまにより復活させられ、今も生きて働き、私たちと共にいる。この方は終末の時に再び来られるが、その救いに与るために、あなた方は神さまに立ち帰って、イエスを信頼する者となりなさい、と語っています。私たちはいつも神さまに立ち帰りながら、イエスの再臨における慰めの時を待ち望みつつ、希望に生きるのです。そこに神さまの祝福を豊かに与る歩みがあるのです。